

トス故ニ是レ亦未ダ以テ學校用ニ最適セルモノト爲ス能ハズ故ニ今日ノ位地ニ在テハ先ツ「箏」及「胡弓」ノ改良セルモノヲ用ヒ可成ハ「風琴」ヲ備ヘテ其全功ヲ期スルヲ善トス然レトモ猶該唱歌ニ用フベキ適當ノ樂器ヲ製出セン事ハ本掛ニ於テ日夜苦辛スルトコロナリ

〔手書き〕

〔音監經伺書類上下、音樂取調掛成績申報書〕明治十七年

五 伊澤修二の示諭

明治十五年十二月十二日、学事諮問会會員が音樂取調掛を參觀のおり、伊澤修二は唱歌の効益および該科開設の方法等について演説を行った。

教育上音樂ノ缺クベカラザル所以ハ本省ニ於テ既ニ諮問會々場ニ於テ諭示セラレ其要旨方ニ顯然タルベシ。然レドモ該會ニ於テ諭示ノ事項ハ教育ノ全局ニ涉リ固ヨリ一科ヲ專示スルノ意ニ出デザレバ勢ヒ其大要ヲ擧ゲテ小細ヲ遺サザルヲ得ズ。是故ニ我が音樂取調掛ハ本日諸氏ノ參觀ニ會シ唱歌ノ効益等ヲ詳説セント欲ス。抑古昔漢土ニアリテハ有虞ノ世變ニ命ジ樂ヲ司ラシメ胄子ヲ教フル文アリ。是教育ノ初ニ音樂ヲ用フルノ證トス可シ。我邦ニ在リテモ中世ノ頃唐樂ヲ傳ヘテ縉紳ノ子弟幼ヨリ之ヲ習ヒ聲樂ノ助ケニヨリテ文運ノ盛旺ヲ來セシハ史乘以テ徵ス可シ。然リ而シテ今日猶我邦諸學校ニ唱歌ヲ設ケザルモノ何ゾヤ。其ノ因タル蓋シ準備ノ未ダ整ハザルニ在リト雖ドモ亦從來我邦人ノ音樂ヲ以テ光陰ヲ漫過スルノ具ト爲シ教育上其効用鴻大ナルヲ知ラザルニ坐スルヲ免レズ。故ニ當掛ニ於

テハ先ヅ実績ニ據リテ唱歌ノ効益ヲ示シ次デ該科開設ノ方法及教授ノ順序等ニ及ボシ以テ諸氏ノ注意ヲ興起セントス。唱歌ノ効益タル要スルニ二項アリ。請フ、次ヲ遂テ左ニ之ヲ陳述セン。

其一 健全上ノ益

夫レ人身ノ健否ハ身體内部ノ機關ニ屬シ其外部ニ屬セザルハ世ノ知ルトコロナリ。故ニ四肢ノ如キハ之ヲ損傷スルモノナホ其健全ヲ保持スルアリ。之ニ反シテ内部ノ機關ニ於テ少シク其宜シキヲ得ザルトコロアルトキハ乍チ全身ニ影響ヲ及ボサバノ殆ド稀ナリ。然リ而シテ内部ノ機關ハ肺ヲ以テ最モ要機トス。抑肺ハ呼吸ヲ司ルノ官ニシテ呼吸ハ人體ニ資スルノ基本ナリ。人ハ數日間食ハザルモナホ其生ヲ保ツヲ得ベシ。數時間モ呼吸ヲ廢シ生存スルモノ未ダ曾テ之アラズ。抑唱歌ハ聲音ヲ練ルノ術ニシテ則チ體格ヲ正シ呼吸ヲ節シ以テ肺臟ノ強壯ヲ來シ人身ノ健全ヲ降フスル所以ナリ。有名ナル音樂家ノ説ニ據レバ歐米ノ諸國唱歌ヲ小學ニ導キシ以來統計上人民健康ノ度ヲ進メタリトイフ。現ニ本掛傳習並ビニ本掛ニ於テ臨教スルトコロノ兩師範學校及學習院生徒ノ如キモ唱歌ヲ修ムル以來日子猶少シト雖ドモ其中往々血色ヲ進メ健康ヲ致セシ者アリ。是唱歌ノ健全上ニ益スル一端ヲ觀ルニ足ルモノト云フベシ。

其二 德育ニ資スルノ益

唱歌ハ人性ノ自然ニ本ヅキ其心情ヲ感動觸激スルモノニシテ喜悅ノ歌曲ハ人心ヲ喜バシメ悲哀ノ歌曲ハ人心ヲ哀マシムル第一モ心情

ノ感動ヲ生ゼザル者ナシ。故ニ純正ノ歌ヲ唱フルトキハ心自ラ正シ和樂ノ音ヲ聞クトキ心自ラ和グ。心和正シキトキハ邪惡ノ念外ヨリ入ル能ハズ。心ニ邪惡ノ念ナキトキハ善ヲ好ミ惡ヲ避クルハ人ノ常ナリ。是ヲ以テ心ヲ正ウシ身ヲ修メ俗ヲ易フルハ音樂ニ如クモノナシ。古語ニ曰ク禮樂不可以斯須去身ト。古聖ノ禮樂ヲ重ズル其レ斯ノ如シ。今日我教育ニ此ノ科ヲ缺キテ可ナランヤ。

夫レ樂ハ同ジキヲ統ブルモノニシテ三軍ノ將千萬ノ衆ヲ率キ其進退井然トシテ序ヲ失ハズ以テ勝ヲ戰陣ニ恣ニスルハ實ニ金鼓ノ力ニ依テ正シク之ヲ司導スルニ由ルニ非ズヤ。教育者ノ子弟ニ於ケルモ亦何ゾ之ニ異ナラム。千百ノ子弟相和諧シテ坐作進退恰モ一教師ノ心ヲ以テ其手足ヲ使用スルガ如クニ至ラシムルモノ平素和諧ノ心情ヲ育成スルニ非ズンバ能ハズ。抑和諧ナキノ子弟ハ校中ニ在テハ或ハ喧鬪ヲ好ムノ生徒トナリ一家ニ在テハ不孝ヲ行フノ子弟ト爲リ社會ニ出デテハ或ハ不順ノ人民トナリ君長ニ仕ヘテハ往々不敬ノ臣下ト爲ルナリ。然リ而シテ此和諧ノ心情ヲ發育スルハ音樂ノ力ニ由ラズシテ將タ何ニ由ルベキヤ。蓋シ音樂ハ同情相憐レミ彼是相親睦スルノ至情ヲ感發セシムルノ基礎ヲ爲スモノナリ。

前二章説ク所ノ目的ヲ達センニハ先ヅ何レノ處ニ於テ之ヲ施スベキヤ。曰ク小學ニ於テスルノ善キニ如クモノナシ。夫レ小學ハ嬰兒ヲ薰陶鑄冶スルノ最要緊ノ場ニシテ嬰兒ハ人生ノ萌芽ナリ。蓋シ萌芽軟緑ハ風化感染ノ効最モ鋭シ。故ニ之ガ滋養ニ供シ之ガ周匝ニ布スルモノハ最モ謹デ之ヲ撰擇セザルベカラズ。故ニ歌曲ノ如キモ婉曲ニシテ風致アリ善ク人ヲ正ニ導キ自ラ心ノ邪ヲ去ルヲ以テ妙トスベシ。是ヲ以テ本掛撰スル所ハ多ク此意ヲ主トシ勉メテ平和ニシテ

議論ニ涉ラザル者ヲ取レリ。マ、理義ヲ主トスル者アルモ多クハ花鳥風月ノ辞ヲ其間ニ雜ヘテ心神ヲ悅懌セシメ自然ニ善ニ化シ邪ヲ去ルノ意ヲ寓シ特ニ德育ニ資スル所ノモノヲ取用セリ。凡徳毓ノ含有スルトコロノ域甚ダ廣大ニシテ輒ク其要綱ヲ掲出スル能ハズトイヘドモ今ソノ梗概ヲ摘載シテ唱歌ノ德育ニ資スル所以ノ實例ヲ示スベシ。

第一、凡ソ幼稚ノ始メテ學ニ就クヤ猶進學ノ力ニ之シキヲ常トス。故ニ先ヅ進學ノ快情ヲ鼓舞作興セザルベカラズ。

其歌 進めくく (バイオリン 第二面)

進めくく、あしとくすすめ、とまれとまれ、一度にとまれ、とま
るもゆくも、をしへのまゝに、立つもあるも、教のまゝに。咲花
も、なく鳥も、おもしろきはなぞのや、すゝめすゝめ、あしとく
すゝめ。

學べまなべ、つとめてまなべ、習へく、たゆまずならへ、學の
道を、たへせずならへ、よむもかくも、教のまゝに、讀むふみも、
かくもじも、おもしろき、うひまなび、まなべまなべ、つとめて
まなべ。

第二、凡ソ愛ハ德育上缺ク可ラザル所ナリ。故ニ幼年ヨリ事物ヲ愛
シ朋友ヲ愛スルノ心情ヲ養ハザルベカラズ。

其歌 霞か雲か (洋琴)

霞か雲か、はた雪か、とばかり匂ふ、その花ざかり、もゝとりさ
へも、うたふなり、霞は花を、へだつれど、隔てぬ友と、きて見
るばかり、うれしき事は、世にもなし、霞みてそれと、見えねど
も、なく鶯にさはれつゝも、いつしか來ぬる、はなの陰、

第三、父母天地ノ思ハ人生須臾モ忘ル可カラザル所ノモノナリ。故ニ常ニ其恩惠ヲ思フノ心ヲ存セシメザル可カラズ。

其歌 大和撫子（風琴）

大和なでしこ、さまぐくに、おのがむきく、さきぬとも、おほしたてゝし、ちゝはゝの、庭のをしへに、たがふなよ。
野辺の千草の、いろくに、おのがさまぐ、さきぬとも、生したてゝし、あめつちの、露のめぐみを、わするなよ。

第四 父子ノ親ハ人倫ノ最モ重ンズル所ナリ。故ニ父母ヲ愛慕スル心情ヲ養ハザルベカラズ。

其歌 思ひ出れば（風琴）

思ひいづれば、三年のむかし、わかれしその日、わが父母の、かしらなでつゝ、まさきくあれと、いひしおもわの、したはしきかな、あしたになれば、かどおしひらき、日数よみつゝ、ちゝまぢまさむ、わがおもひ子は、ことなしはてゝ、はやいつしかも、かへり來なんと、

あしたになれば、かどおしひらき、日数よみつゝ、ちゝまぢまさむ、わがおもひ子は、ことなしはてゝ、はやいつしかも、かへり來なんと、
あしになれば、かどおしひらき、ゆふべになれば、とこうちはらひ、ちゝまぢまさむ、はゝまぢまさむ、はゝまぢまさむ、はやく帰らん、もとの國べに、

第五 朋友ノ交誼ハ亦人倫ノ重ンズルトコロナリ。故ニ其信義ヲ厚クスルノ心情ヲ養ハザルベカラズ。

其歌 螢の光り（箏二面 胡弓二挺）

ほたるのひかり、まどの雪、ふみよむ月日、かさねつゝ、いつしか年も、すぎの戸を、あけてぞけさは、わかれゆく、とまるもゆくも、かぎりとして、かたみにおもふ、ちよろづの、ころのはしを、ひとことに、さきくとばかり、うたふなり、筑紫のきはみ、みちのおく、海やまとほく、へだつとも、そのまごころは、へだてなく、ひとつにつくせ、國のため、千島のおくも、おきなほも、やしまのうちの、まもりなり、いたらんくに、いさをしく、つとめよわがせ、つゝがなく。

第六 古今聖主ノ恩徳ヲ欽慕スルハ人臣タルモノ、至情ナリ。故ニ其仁政治績等ヲ頌賛スルノ心ヲ養ハザルベカラズ。

其歌 雨露に（風琴）

雨露に、おほみやは、荒れはてにけり、御めぐみに、民草は、うるほひにけり、かくてこそ、今の世も、かまどのけぶり、みそらにも、あまるまで、たちみちぬらめ、

飢ゑこぞえ、なきまどふ、民もやあると、身にかへて、かしこくも、おもほすあまり、あられうつ、冬の夜に、ぬぎたまわせる、大御衣の、あつきその、御ころあわれ、

第七 君に事ヘテ能ク忠ヲ盡スハ臣タルモノ、分ナリ。故ニ忠臣ノ功烈ヲ追慕スル情ヲ養ハザルベカラズ。

其歌 湊川（洋琴）

忍びえぬ、人の涙や、むせびゆく、みなとがは、いりあひの、かねぞ身にしむ、そのあはれ、そのいさを、忠臣嗚呼忠臣、兄弟の人、忠臣、嗚呼忠臣、たぐひなや、君がため、散れとをしへし、

みよしのゝ、さくらばな、ちりはてゝ、世にこそかほれ、そのう
たと、そのまこと、忠臣、嗚呼忠臣、兄弟の人、忠臣、嗚呼忠臣、
たぐひなや、

第八 尊王ノ志氣ヲ養フハ徳育上最要スル所ナリ。故ニ昭代ノ永久
ヲ願ヒ寶祚ノ無疆ヲ祈ルノ心情ヲ興起セシメザル可ラズ。

其歌 君が代(管絃樂)

君が代は、ちよにやちよに、さざれ石の、巖となりて、苔のむす
まで、うごきなく、ときはかきはに、かぎりもあらず、きみが世
は、千ひろの底の、さざれ石の、鵜のゐる磯と、あらわるゝま
で、かぎりなき、みよの榮を、ほぎたてまつる。

第九 愛國心ヲ養フハ徳育上特ニ貴重スル所ナリ。故ニ赤心報國ノ
義氣ヲ煥發セシメザル可ラズ。

其歌 すめら御國(風琴)

すめら御國の、ものゝふは、いかなることをか、つとむべき、た
ゞ身にもてる、まごゝろを、君と親とに、つくすまで、
すめら御國の、をのこらは、たわまずをれぬ、こゝろもて、世の
なりはひを、つとめなし、國と民とを、とますべし、

第十 神恩ヲ謝スルハ人タルモノ、常ナリ。故ニ敬神ノ心情ヲ養ハ
ザルベカラズ。

其歌 榮ゆく御代(管絃樂)

さかゆく御代に、生れしも、おもへば神の、めぐみなり、いざや
こら、神の恵を、ゆめなわすれそ、ゆめなわすれそ、ゆめなわす
れそ、ときの間も、

いざや兒等、神のめぐみを、ゆめなわすれそ、ゆめな忘れそ、ゆ

めなわすれそ、ときのまま、めぐみも深き神垣かみがきのみ前の、神、と
りもちて、ちはやぶる、神の御前に、うたひまはまし、うたひま
はまし、うたひまはまし、よもすがら、千早振、神のみまへに、う
たひまはまし、うたひまはまし、うたひまはまし、よもすがら、
第十一 聖賢ノ格言ヲ尊信スルノ心ハ須臾モ其身ヲ離ルベカラザル
ナリ。故ニ平素之ヲ謳歌シ常ニ其心ヲ存セシメザルベカラズ。

其歌 五倫の歌(風琴)

父子親あり、君臣義あり、夫婦別あり、長幼序あり、朋友信あり、
從來本掛ニ於テ撰定スル所ノ歌曲中此類尚多シト雖ドモ他ハ之ヲ略
ス。何トナレバ本官ガ今日諸氏ニ向テ望ム所ハ唯要旨ノ一端ヲ示ス
ニ在ルヲ以テ右ノ數例ニテ唱歌ノ徳育ニ資スルノ益ハ既ニ明了ナラ
ント信ズレバナリ。

サテ從是直接ニ唱歌ヲ學校ニ開設スル方法如何ニ渉ルベシ。此論
点ニ至リテハ乍チ唱歌ヲ教授スルニハ何等ノ圖書ニ據リ其ノ樂器ハ
何等ノ器械ヲ用ヒテ可ナリヤ教員ハ何處ニ得ラルベキヤ又其開設ニ
就テ幾何ノ費用ヲ要スベキヤ等ノ問題ヲ生ズベシ。此等數条ノ要件
ノ如キハ本掛開設以來職トシテ苦慮シタルトコロニシテ今日ニ至リ
テハ其方法順序等既ニ略定セルモノアリ。即チ唱歌教課書ハ當春以
來既ニ諸府縣ヘモ配布シタルトコロノ唱歌集并ニ唱歌掛圖ヲ以テ之
ニ充ツルトキハ小學初等科及中等科ノ教授ニハ先以テ差支ナカルベ
シ。猶今後其次編等連續出スルヲ以テ用書ノ件ニ於テハ更ニ苦慮
スルヲ要セザルナリ。

次ニ樂器ハ何物ヲ用ヒテ可ナリヤノ問題ニ至レリ。樂器ハ其品種
多シト雖ドモ初學ノ者ニハ更ニ洋製ノ器ヲ用フルニ及バズ我邦ニ通

用スル所ノ箏胡弓ニシテ足レリ。即チ箏胡弓ノ如キハ民間普通用ノモノニ係リ。且音樂ノ理論上ヨリ視テモ是等ハ大ニ採ルベキトコロアリ好器トス。殊ニ胡弓ノ如キハ他ノ樂器ト異リ音力ノ長ク繼續スルヲ以テ初學ノ徒ニ最モ便ナルモノト爲ス。箏胡弓ヲ箏謠若クハ其他雅俗ノ諸曲ニ合スルト此ノ唱歌ニ合スルトハ唯之ヲ用フル方法即チ調子ノ取方ヲ異ニスルノミナリ。故ニ其ノ調子サヘ合スレバ唱歌集中ノ歌曲ハ一モ箏胡弓ヲ以テ演奏スルヲ得ベカラザルモノナシト云ベシ。

凡ソ調子ヲ取ルニハ先其基本トスル所ノ音即チ宮ト定ムル所ノモノナカル可ラズ。例ヘバ平調ナレバ平調ヲ宮ト定メ双調ナレバ双調ヲ宮ト定ムルガ如シ。故ニ其何調タルカヲ定メンニハ標準タルベキ器械ヲ要スルナリ。此器械ハ調音又子又ハ律管ニテ事足ルベシ。既ニ宮ト定ムル所ノ音ヲ得ルトキハ律旋ナレ呂旋ナレ長音階ナレ短音階ナレ其旋法ニ隨ヒテ要スル所ノ諸音ヲ定メザル可ラズ。其法例ヘバ宮ヨリ徵ニ至リ徵ヨリ商ニ及ボスガ如ク五音ト四音トノ音程ニヨリテ調子ヲ取ルトキハ大體先ヅ差支ナシ。(尤モ第三音ハ少シク差アリ耳官ノ聴力ニ任セザルヲ得ズ。)然ルニ初學ノ徒ニアリテハ此法ニヨルコト猶難キヲ覺フルヲ以テ旋宮圖(實物ヲ示ス)ト律管トニヨリテ調絃シ又調絃琴(本掛ノ製造ニ係ルモノ實物ヲ示ス)ニヨリテ調子ヲ取ルノ一助トセリ。尤モ此ノ如キ器械ニヨルハ決シテ本法ニ非ザルヲ以テ假令最初ハ此等ノ法ニヨルモ到底耳官ノ聴別力ヲ發育シテ専ラ之ニ依ルヲ務ムルナリ。

先右等ノ如キ方法ニヨリ唱歌ヲ學校ニ施ス時ハ箏胡弓其他二三ノ器械ヲ以テ足レリトスベシ。然シテ其費用ノ如キモ唯此數種ノ器械

ト唱歌集及ビ掛圖等ヲ要スルノミナレバ固ヨリ多額ヲ要セザルコト知ル可シ。

前章ニ於テハ普通ノ小學校等ニ最少ノ費額ヲ以テ唱歌ヲ實施スルノ方法ヲ述タルモノナリ。我國今日ノ狀況ニ在リテハ先右等ノ方法ニ依ルヲ適度トスベシ。然レドモ音樂ノ事タル頗ル高尚ノ一科ニシテ其樂器ノ如キモ段々高尚ナル種類アリ。故ニ猶一層進ンデ中學若シクハ師範學校ニ至リテハ可成的風琴ヲ備フルヲ良シトス。此樂器ハ本邦ニテ製作シ得可ラザルニ非ザレトモ猶不完全ナルヲ免レズ。尤モ目下輸入品ヲ仰グモ其價ハ概ネ一箇ニ付百五十圓内外ナルベシ。サレバ學校ニヨリテハ隨分購入シ得ベキ處ナキニ非ザルベシ。洋琴ノ如キハ頗ル完全ナル器械ナレドモ其價貴クシテ今日地方ノ學校ニ向テ其購買ヲ望ム可カザルモノトス。彼管絃樂器ノ如キニ至リテハ音樂上最高等ノ地位ヲ占ムルモノナレバ大學若シクハ音樂專門學校ニ非ザレバ之ヲ備フルヲ要セザルナリ。

次ニ教員ハ何處ニ得ラルベキヤノ問題ニ至レリ。此教員ハ兩師範學校卒業生中ニハ往々唱歌ニ熟シ其初歩ヲ授クルニハ差支ナキ者アリ。特ニ女子師範學校生徒ニハ卒業ノ後一般ノ唱歌教授ニ堪フベキモノ少カラザルベシ。而シテ將來小學校等ニ唱歌ヲ普及セシムルハ師範學校卒業生ヲ以テ之ニ充テントトヲ要ス。然リト雖ドモ音樂ノ事タル他ノ學科ト異ナリ僅少ノ年月ヲ以テ成功スベキニ非ズ。又幼時ノ教育アルニ非ザレバ中年ヨリ之ヲ習得センコト甚ダ難シ。故ニ本掛ニ於テハ從前多少普通ノ教育ヲ受ケ殊ニ音樂上ノ教育アル者ヲ撰ビテ入學ヲ許シ相當ノ課程ヲ設ケテ特ニ之ヲ教育シ將來師範學校及中學校等ノ教師トシ該科ノ開設及進歩等ル謀ラベキ目的ヲ以テ向

來多少生徒ヲ募集スベキ見込アレバ諸氏帰縣ノ後相當ノ生徒ヲ撰ビテ之ヲ派遣セバ當掛ニ於テハ其養成ニ付充分ノ便利ヲ與フベシ。既ニ京都府ノ如キハ右ノ如キ目的ニテ生徒一名ヲ派遣セリ。又師範學科取調トシテ府縣ヨリ派出セシモノ、内ニモ本務ノ餘暇ヲ以テ十有餘名ハ火木土午辰戌未申酉戌亥ノ修勵スルアリ。其進歩已ニ見ルベキモノ少シトセズ。ナホ今後幾許ノ手段ヲ盡クサレナバ各地方ニ於テ此學科ヲ開設スルノ便益モマタ隨テ大ナルベシ。

唱歌開設ノ方法ハ前數章ニ於テ略其要ヲ述ベタレバ今其教授ノ方法順序等ノ大綱ヲ示スベシ。

第一 口授唱歌

凡ソ幼兒ニ唱歌ヲ授クルニハ先ヅ其聽力ノ發達ト聲律ノ練習トヲ勉メザル可カラズ。是レ最初ニ此科ヲ設クル所以ナリ。

第二 數字練習

聽力既ニ發達スルトキハ視力ニ假リテ聲律ヲ識別スルコトヲ勉メザルベカラズ。是レ次ニ此科ヲ設クル所以ナリ。

第三 音階練習

音階ハ旋律ノ元基ニシテ諸曲ノ因テ起ル所ナリ。故ニ之ニ習熟セシメザル可ラズ。

第四 譜表ノ練習

繁錯ナル樂曲ヲモテ解シ易カラシムルハ主トシテ譜表ノ助ニヨラザレバ能ハズ。是此科ヲ教フル所以ナリ。

第五 單音唱歌

單音唱歌ハ唯一部ノ聲ヲ以テ唱フモノニシテ小學ノ唱歌ノ如キ多クハ此類ニ屬スルモノナリ。

第六 輪唱歌

輪唱歌ハ單音唱歌ヨリ諸重音唱歌ニ移ルノ豫習ニシテ其目的タル精シク聲律ヲ練ルニアリ。

第七 複音唱歌

複音唱歌ハ二部ノ聲律ヲ和シテ同時ニ之ヲ唱フモノニシテ諸重音ノ最初ニ位スルモノナリ。

第八 洋琴

洋琴ハ音樂專門ノ者ニハ初學ノ時ヨリ聽力ヲ發達シ且樂譜ニ習熟セシムル爲メ特ニ必要ノ一科トスルモノナリ。

第九 管絃樂

管絃樂ハ前ニモ言ヘル如ク最高等ノ音樂ニシテ諸種ノ樂器ヲ合奏シ各種ノ聲律ヲ和叶シ以テ音樂ノ美妙ヲ顯ハス所ノモノナリ。是ヨリ各種ノ例ニヨリテ實施ニ就キ右諸科ノ大要ヲ示サン。請フ聽取セヨ。

口授唱歌 二曲

蝶々

てふてふてふてふ、菜の葉にとまれ、なのはにあいたら、櫻にとまれ、さくらののはなの、榮ゆる御代に、とまれよあそべ、あそべよとまれ、

おきよく、ねぐらのすずめ、朝日のひかりの、さしこぬさきに、ねぐらをいで、こずえにとまり、あそべよすずめ、うたへよすずめ、

見渡せば

見渡せば、あをやなぎ、はなざくら、こきませて、みやこには、

みちもせに、春の錦をぞ、さほひめの、おりなして、ふる雨に、
そめにける。

見渡せば、やまべには、をのへにも、ふもとにも、うすきこき、
もみぢ葉の、あきのにしきをぞ、たつたひめ、おりかけて、つゆ
霜にさらしける。

數字練習

音階練習

音階ノ説明ヲナシ同前ノ曲ニ適用スルノ法ヲ示ス。

譜表練習

同前ノ曲ヲ譜表ニ移シ他二一二ノ新曲稍高等ナルモノヲ加フ。

單音唱歌

唱歌掛圖中最初五六曲ヲ唱ヒ樂器ハ箏胡弓等ヲ用フ。

春の彌生（風琴）

春のやよひの、あけぼのに、四方の山邊を、見わたせば、花ざか
りかも、しら雲の、かゝらぬみねこそ、なかりけれ、花たちばな
も、にほふなり、軒のあやめも、かほるなり、ゆふぐれさまの、
さみだれに、やまほとゝぎす、なのるなり、

秋のはじめに、なりぬれば、ことしもなかはは、すぎにけり、わ
がよふけゆく、月かげの、かたぶくみるこそ、あはれなれ、
冬の夜さむの、あさぼらけ、ちぎりし山路は、ゆきふかし、こゝ
ろのあとは、つかねども、おもひやるこそ、あはれなれ、

こよやく『音楽取調成績申報要略』では「燕」としてある（洋琴）

こよやく、こよつばくらめ、おやも雛も、ひねもすかたり、た
のしみし、そのすをいでて、とほき國邊に、たちわかるとも、か

へりこよや、わがやどに、かへりこよや、つばくらめ。

來なけ來なけ、やまほとゝぎす、われも人も、夜はよもすがら、
いねもせず、深山をいで、都のそらに、なけほととぎす、な
れなれ、わがやどに、來なけ來なけ、郭公。

富士の山（管絃樂）

ふもとに雲ぞ、かゝりける、高嶺に雪ぞ、つもりたる、はだへは
雪、衣は雲、その雪雲を、よそひたる、ふじてふやまの、見わた
しに、しくものもなし、にるもなし、

外國人も、あふぐなり、我國人も、ほこるなり、てる日の影、そ
らゆくつき、つき日とともに、かゞやきて、富士てふ山の、見わ
たしに、しくものもなし、にるもなし。

太平曲（管絃樂）

ゆはずのさはぎ、飛火のけぶり、いつしかたえて、をさまる御世
は、あめつちさへも、とゞろく計り、萬世までと、君が世いはへ。
たいらの都、百敷の宮、御跡になして、むさしのくににしまり
ましぬ、としは三千とせ、代はもゝはたち、御功績あふげ。

輪唱歌

三寺の鐘

みてらの鐘の音、月よりおつる、ふみよむともし火、かすかになり
て、一二三四五六七八。

つきかげかたぶき、霜さへわたる、ねよとのかねの音、枕にひゞ
く、一二三四五六七八。

いさり火濕りて、霜天に満ち、姑蘇城外なるかねかも聞ゆ、一二三
四五六七八。

複音唱歌

千里の道

ちさとの道も、あしもとよりぞ、はじまれる、葉末^{はずえ}の露も、つもれば淵と、なるぞかし

雲ゐる山も、ちりひぢよりぞ、なれりける、ふみよむみちも、ことわりのみは、ひとつなり、

閨の板戸

閨のいた戸の、あけゆくそらに、朝日のかげの、さしそめぬれば、ねぐらをいづる、百八十鳥は、霞のうちに、ともよびかはし、夢見る蝶も、とくおきいでて、むれつゝはなに、まひあそぶなり、あさいねする身の、そのおこたりを、いさむるさまなる、春のあけぼの。

洋琴及箏曲

独弾曲 一曲

二人連弾曲 二曲

箏曲 六段

管絃樂 三曲

コーラルナイトソング

チャーミングヴァレー

マーチ

右唱歌音楽ノ効益及該科開設ノ方法教授ノ順序等ハ素ヨリ其一端ヲ示スニ過ギズト雖下モ幸ニ諸氏ノ同感ヲ得テ自今唱歌ヲ學校ニ導クノ端緒ヲ開クニ至ラバ豈惟本掛ノ幸榮ノミナランヤ。實ニ我邦教育上ノ一大幸ト云フベキナリ

〔手書き、長野県上伊那郷土館蔵〕

六 音楽取調掛における調査および研究

音楽取調掛設置に際して、伊澤修二が文部卿に提出した「取調見込書」には「東西二洋ノ音楽ヲ折衷シテ新曲ヲ作ル事」「將來國樂ヲ興スベキ人物ヲ養成スル事」「諸學校ニ音楽ヲ實施スル事」の三項目が目標としてかけられた。左の報告書はその中の第一項に関する調査・研究の実績を記したものである（『音監經伺書類上下、音楽取調掛成績申報書』明治十七年）。

(一) 「諸種ノ樂曲取調ノ事」

諸種ノ樂曲中特ニ取調ヲ要スルモノハ本邦ノ部ニ在テ雅樂俗樂トシ外國ノ部ニ在テ西洋樂清樂トス

俗樂ニ於テハ箏曲、長唄、等ヲ始メ其他各種ニ及ビ西洋樂ニ於テハ古樂今代樂等皆其取調ヲ要スルモノトス

音律ノ事タル固ヨリ人ノ性情ノ自然ニ出ツルモノナレバ古今ヲ問ハズ東西ヲ論ゼズ殆ト同一ニ歸スベシト雖モ其旋法ニ至リテハ各相異ナル所アリ随テ得失アルヲ免レザルモノナレバ博ク諸樂ノ根理ヲ研究シ其得失ヲ考査シ其良否ヲ審覈シ以テ彼長ヲ取り此短ヲ補フノ用ニ供セザル可ラズ是レ第一ニ諸種ノ樂曲取調ヲ要スル所以ナリ

樂曲取調ノ方法ハ從來口傳ニ出デ樂譜ナキモノハ之ヲ精究審解シテ其樂譜ヲ作り若シ其譜アルモ各種異様ノ方法ヲ用キタルモノハ之ヲ各國普通ノ樂譜ニ改メ精確明瞭ニ其曲調ヲ記スル事ヲ務ムベシ

斯ノ如ク諸種ノ樂曲ヲ同一ノ基本ニ歸シ普通ノ樂譜ニヨリテ之ヲ